

書評

問題解決型救急初期診療 第2版

田中和豊 ● 著

〔評者〕志賀 隆(東京ベイ・浦安市川医療センター救急部長)

本書は、救急の現場の最前線で働く医師たちへぜひお薦めしたい本である。通常、救急の参考書・マニュアル本は、複数の著者が執筆することが多い。本書は、日本と米国において外科と内科の臨床の最前線で研修をされ、さらに日本有数の教育病院である聖路加国際病院、国立国際医療センター、済生会福岡総合病院にて指導医として数多くの研修医を指導してこられた田中和豊先生によって執筆されている。そのため、通常はセクショナリズムに陥りやすい内科や外科の救急も連続性をもって記載されている。一貫して現場で役立つ本であることが意識されており、忙しい医師が求める事項が簡潔に記載されている。

本書を開くと、はじめに救急診療におけるプラクティカルな基本戦略が記されている。サッカーに例えられた救急医としての診療姿勢は実にわかりやすい。さらに、Oslerの格言から始まり、救急の限られた時間の中で問診と身体所見をどのようにして有効にとるか著者の知恵が凝縮されて記述され

ている。これは救急診療に初めて臨む研修医にとって非常によい導入である。

各論に移ると、救急でよくみる主訴や問題についてプラクティカルに対応できるようにフローチャートが使用されている。また、処方などの実際の対応も日本の薬剤や分量になっていてすぐに応用することができるので、外国のマニュアル本と比べると非常に使いやすい。救急では緊急手技や縫合などの基本的外科手技が必須であるが、本書では多彩なイラストがあり、救急で必須の手技が非常にわかりやすく記載されている。さらに、第2版になって耳鼻科・眼科などのいわゆるマイナー領域の対応もわかりやすく記載されており、忙しい現場で働く救急部の医師がすぐに参照できるようになっている。

各論を読み終えた読者には、どのように臨床医として勉強すべきかという10カ条のうれしい付録もついている。また、変化する医療を取り巻く状況に対応できるように、法的事項、医学倫理、医療



過誤などについて著者の解説とわれわれのすべき取り組みが記されている。

以上から、本書はまず救急診療の初学者～中堅の医師が現場で使い、さらに深みをもって成長してからは後輩の指導にも生かすことのできる素晴らしい1冊である。

B6変 頁608 2011年
定価5,040円(本体4,800円+税5%)

[ISBN978-4-260-01391-8]

医学書院 刊